

国語科学習指導案

日 時 令和4年9月7日(水)
第5校時 13:25～14:10
対 象 第6学年3組 30名
学 校 名 小平市立小平第二小学校
授 業 者 教諭 帯津 衣里
会 場 北校舎4階 6年3組教室

【令和4年度 研究主題】

「思考力・判断力・表現力の基盤となる言語能力の育成」

～国語科を中心とした言語活動の充実～

1 単元名 表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう

教材名 『鳥獣戯画』を読む／日本文化を発信しよう(光村図書)

2 単元(題材)の目標

・日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。

〔知識・技能〕(3)オ

・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる

〔思考力・判断力・表現力等〕B(1)イ

・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

〔思考力・判断力・表現力等〕B(1)エ

・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。

〔思考力・判断力・表現力等〕C(1)ウ

・表現の工夫を読み取ったり、構成を工夫して書いたりすることに粘り強く取り組むことができる。

〔学びに向かう力・人間性等〕

3 単元(題材)の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに気付いている。((3)オ)	① 「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) ② 「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ)	① 文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって日本の絵画を解説しようとしている。

	③ 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている（C（1）ウ）	
--	---	--

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、「読むこと」と「書くこと」の複合単元である。小学校学習指導要領（平成29年3月告示）、国語〔第5学年及び第6学年〕 2 内容〔思考力、判断力、表現力等〕B 書くこと（1）、C 読むこと（1）

B 書くこと（1）

イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。

エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

C 読むこと（1）

ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

を受けて設定した。

この単元を通して身に付けさせたい言語能力は「表現の工夫をとらえて読む力」「構成や表現を工夫して書く力」である。その力を身に付けさせるために、本単元では、「B 書くこと」の言語活動例「ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動」、「C 読むこと」の言語活動例「ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを話し合ったり文章にまとめたりする活動」を具現化し、「自分で選んだ絵画の魅力を伝える文章を書く」という言語活動を設定した。

単元の前半では、『鳥獣戯画』を読む』を表現の工夫を捉えて読み、単元の後半では、そこで学んだ表現の工夫を生かして、日本文化のひとつである日本の絵画を解説する文章を書いていく。最後に、書いた文章を読みあう活動をすることで、共通点や相違点が明確になり、さらに表現の工夫についての認識を広げられるようにしたい。

(2) 児童観

省略

(3) 教材観

本教材は、筆者の高畑勲さんが「鳥獣人物戯画」の第1巻を取り上げ、日本文化の魅力を伝えている説明的文章である。特徴的なこととして、「絵の示し方」が挙げられる。1枚の絵巻物をただ見

せるのではなく、切り取ったある 1 場面を見せてから全体を見せるという工夫が見られる。それだけではなく、書き出しや文末表現など、読み手をひきつける「表現の工夫」もたくさん使われている。また、本文中では、絵についての描写とそれに対する解釈や評価が繰り返し書かれているため、絵と文章を照らし合わせて読む力が大切になってくる。今回は、読み手としての視点だけではなく、自分が解説文を書くときに真似したい表現を見つけるという書き手としての視点ももちながら本教材を読むことで、工夫を見つけるだけではなく、その効果まで考えられるようにしたい。

6 単元の指導計画と評価計画（全 11 時間）

過程	時間	学習目標	学習活動	評価規準 (評価方法)
第一次 見通す	第 1 時	『鳥獣戯画』を読むを読んで、感じたことを書くことができる。	1 日本文化といえどどんなものか思いつくか出し合い、日本文化を発信するという単元のゴールを確認する。 2 鳥獣戯画の絵を見て、読み取ったことを伝え合う。 プロの文章を読んで感じたことを書こう。 3 本文を読んで感じたことを書く。	イー③ ・「鳥獣戯画」について関心をもち、学習の見通しをもって日本文化を発信する学習に取り組もうとしている。 (発言・ノート)
	第 2 時	『鳥獣戯画』を読むを読んで、感じたことを伝え合い、内容を捉えたり、工夫があることに気付いたりすることができる。	1 めあてを確認する。 プロの文章を読んで、感じたことを伝え合おう。 2 感想を伝え合う。 3 単元のめあてを確認する。 高畑さんの書き方の工夫をいかして、自分が選んだ絵のみりよくを伝える文章を書こう。	イー③ ・文章と絵を結び付けて、筆者のものの見方や考え方を的確に捉えている。 (発言・ノート)
第二次 捉える・深める・まとめる	第 3 時	筆者が絵のどんなところに注目し、どのような言葉で評価しているのか捉えることができる。	1 第 1 時で絵の魅力を伝えるために、絵のどんなところに注目したかを振り返る。 高畑さんは絵のどんなところに注目しているのか読み取ろう。 2 筆者が絵のどんなところに注目しているか分かる文に線を引く。 3 注目したところをどのように評価しているのかを読み取る。	イー③ ・文章と絵を結び付けて、筆者のものの見方や考え方を的確に捉えている。 (発言・ノート)

第三次 広げる	第4時 (本時)	筆者が自分の考えを効果的に伝えるためにどのような表現の工夫をしているのかを考えることができる。	1 前時の気づきを振り返る。 高畑さんの文章から、書き方の工夫を見つけよう。 2 工夫をしていることが分かる文章に線を引く。 3 書き方の工夫を仲間分けする。 4 書き方の工夫を整理することで分かったことや、自分が書くときに生かしたいことを振り返る。	イー③ ・文章と絵を結び付けて、筆者のものの見方や考え方を的確に捉えている。 (発言・ノート)
	第5時	筆者が自分の考えを効果的に伝えるためにどのような文章の構成の工夫をしているのかを考えることができる。	1 前時までで見付けた工夫や気づきを振り返る。 構成にこめられた工夫を考えよう。 2 文章の構成の工夫やその効果を見付け、伝え合う。 3 表現や構成の工夫、効果をまとめる。	イー③ ・文章と絵を結び付けて、筆者のものの見方や考え方を的確に捉えている。 (発言・ノート)
	第6時	『鳥獣戯画』を読むで学んだことを生かして、自分で選んだ絵画の描写を捉えたり、説明や評価をしたりすることができる。	1 前時で整理した工夫を確認する。 学んだ見方や工夫を生かして、自分が選んだ絵画を読もう。 2 事実と意見に分けて絵画から読み取ったことをまとめる。 3 読み取ったことを共有しあい、気付いたことを振り返る。	アー① ・読書に親しみ、読書によって、ものの見方や考え方を広げられることに気づいている。 ・必要な情報を見つけている。 (発言・ノート)
	第7時	絵画から読み取ったことを基に、全体の構成を考えることができる。	1 めあての確認をする。 全体の構成を考えよう。 2 スライドの構成を考える。 3 構成をもとに絵の示し方を考える。	イー① ・表現の工夫、論の進め方との関わりを捉えている。 (発言・ノート)
	第8時 第9時	自分が選んだ絵画の魅力が伝わるように、表現を工夫して、下書きを書くことができる。	1 めあての確認をする。 表現を工夫して、文章を書こう。 2 表現の工夫を全体で振り返る。 3 自分の絵画について、文章を書く。	イー② ・構成や割り付けを決め、読み手に魅力が伝わるように表現を工夫しながら紹介文を書いている。(発言・記述)
	第10時	構成や表現の工夫などに着目しながら、互いの文章の	1 めあての確認をする。 友達の書いた文章を読んで、工夫されていると感じたことを伝え合おう。	ウー① ・必要な情報を読み取ることに粘り

		よい点を伝え合う。	2 お互いに紹介文を読み合う。 3 工夫されている点を見つけ、感想カードに書く。 4 感想カードを使って交流する。	強く取り組み、学習の見通しをもって複数の紹介文を選んで読もうとしている。(発言・ノート)
	第 11 時	互いの文章のよい点を伝え合い、単元全体を振り返って学びを確かめることができる。	1 めあての確認をする。 単元全体を振り返り、学んだことを確かめよう。 2 感想カードを使って交流する。 3 単元を振り返り、学んだことをノートに記入し、交流する。	ウー① 学習を振り返り、これからの日本文化に関わる本を読んだり、絵や写真などを用いた文章を書いたりするときにかしていこうとしている。 (発言・ノート)

7 研究主題との関連

【児童に身に付けさせたい言語能力】

- ①表現の工夫をとらえて読む力
- ②構成や表現を工夫して書く力

【その言語能力を身に付けさせるために有効な言語活動】

- ・『鳥獣戯画』を読む」の学習を通して学んだことをいかして、自分が選んだ日本の絵画のみりよくを伝える文章を書く。

【指導にあたって】

①ゴール設定の工夫

本単元のゴールである日本文化を発信する活動で、日本文化を『絵画』に限定することが、教材文の特徴を生かし、表現の工夫や絵の見方などの工夫についてより深く考えることができると考えた。

②項目立て

本単元のゴールで児童が絵画の魅力を書く際、どんなことを書けばいいか分かりやすくするために、「書き方の工夫」(本時)、「絵の注目しているところ」を項目立てした。

③絵画の厳選

児童が選択する絵画を8枚に厳選した。日本の絵画には様々なものがあり、『鳥獣戯画』を読む」から読み取った表現の工夫を生かしていく作品もあると考えた。「読み」を生かす観点から、児童が活動しやすいものを選ぶことができるようにした。また、数も8枚に限定することで、同じ作品を選んだ友達ができるようにする。違う絵画を選んだ友達だけでなく、同じ絵画を選んだ友達との交流を行うことで、同じ作品を選んでも見方や捉え方の違いを知り、表現の一つ一つを深く考えるきっかけと

なると考えた。厳選の視点として、児童からの事前のアンケートも参考にしながら、次のような特徴の絵画を選んだ。

- ①その絵画から想像を膨らませやすい作品
- ②形や大きさ、色、表情、格好など、着目することで特徴を表現できる作品
- ③作者や時代背景、表現の技法など、作品の解説が調べやすい作品
- ④部分と全体など絵の示し方の工夫がしやすい作品

④読書活動とのつながり

『鳥獣戯画』をどう読む？コーナーをつくり、高畑さんではない、別の筆者が書いた、鳥獣戯画の解説や解釈に関する本を用意した。高畑さんの文章と比べて読むことで、表現の工夫について理解が深まったり、文章表現の幅や、絵の見方や考え方を広げたりすることができるのではないかと考えた。また、今回子どもたちに提示する8作品についても、同じように筆者の違う本を複数冊用意することで、より書き方の工夫に気付けるのではないかと考えた。

⑤ロイロノートの活用

第3時～第5時では、高畑さんの文章から、「絵の見方や示し方」、「表現の工夫」、「構成の展開の工夫」を見付け整理していく。そのため、毎時間、子どもたちと一緒に考え、議論しながら整理したものが板書に残っていく。その板書をロイロノートで共有する。それにより、児童は第6時～第9時の書く活動のときに、ノートやワークシートだけではなく、板書も参考にしながら書くことができる。書くことに課題のある児童でも、板書で出てきた表現をまねしたり、工夫するポイントをすぐに確認したりすることができるので、「読み」で学習したことが「書き」に繋がる手立てになるのではないかと考えた。

【目指す児童像】

- ・筆者の表現(書き方や絵の注目しているポイント)に着目し、筆者の思いや工夫を読み取ることができる児童。
- ・自分の思いや日本文化(自分が選んだ絵画)の魅力が伝わるように、工夫して文章を書くことができる児童。

8 本時（全11時間中の第4時）

(1)本時の目標

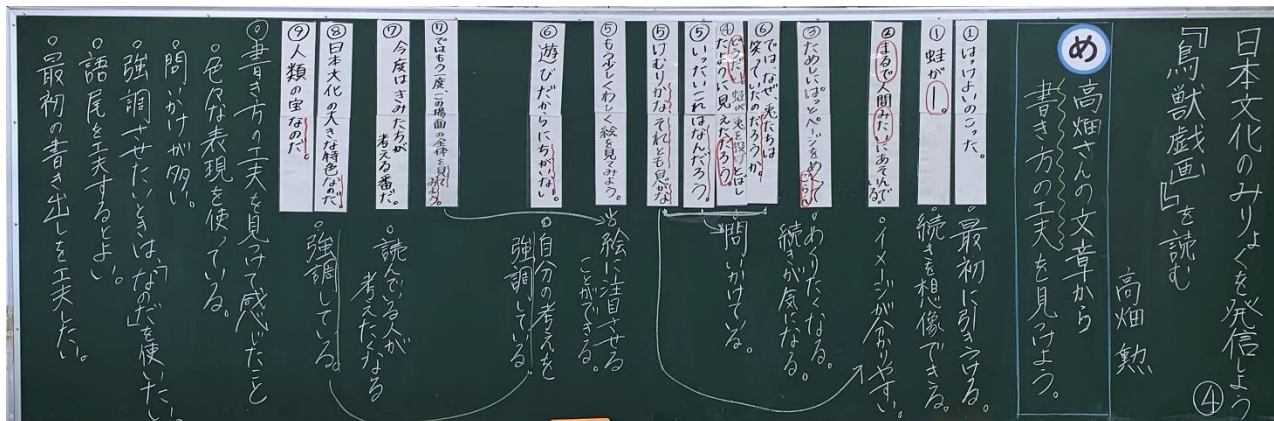
筆者が自分の考えを効果的に伝えるために、どのような表現の工夫をしているのかを考えることができる。

(2)本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 5分	1 前時までの振り返りをする。 ・高畑さんは部分や全体に	・前時の板書を提示することで、絵の見方や評価の表現の仕方を視覚的に捉えられるよう	

	注目して絵を見ていた。 ・いろいろな言葉で評価していた。 2 高畑さんの書き方(A)と別の書き方(B)を比べて気づいたことを発表する。	にする。 ・2つの書き方を比較することで、高畑さんの書き方に工夫があることに気付けるようにする。	
展開 35 分	3 工夫していると感じた文に線を引く。【個人】 4 段落ごとにグループで分かれて、工夫していると感じた文(線を引いた本文)を発表しあい、短冊に文を書く。その書き方のどんなところが良いのについて話し合う。【グループ】 5 工夫している文と、その書き方のどんなところが良いのかについて全体で共有する。【全体】	・「工夫している書き方」を「自分が真似してみたい書き方」に言い換えることで、工夫を見付けづらい児童を支援する。 ・書き方のどんなところが良いのか話し合うことで、書き方の工夫の効果に気付けるようにする。 ・話し合いの流れを視覚的に提示することで、見通しをもって活動できるようにする。 ・自分以外のグループの発表のときにも、似ている意見や違う意見があるときにはハンドサインを使って意見を発表できるようにすることで、工夫の効果についてより深く考えられるようにする。	イー③ ・目的に応じて、筆者の伝えたいことや表現の工夫を捉えている。 (発言・ワークシート)
まとめ 5 分	6 本時を振り返る。 振り返りの視点 ①書き方の工夫を見つけて感じたこと。 ②自分が書くときにいかしたいこと。	・振り返りの視点を示すことで、読みと書きの繋がりを意識できるようにする。	

(3)板書計画



(4)授業観察の視点

①表現の工夫を捉える活動として、

- (1)工夫していると感じる文に線を引く
- (2)線を引いた文について交流する
- (3)その文の書き方のよさを出し合う

という流れは有効な展開であったか。

②第6時以降の「書く」活動にいかせる「読み方」になっていたか。